

童話物語絵本創作の特色から論じた日本児童向けの中国語教材開発のあり方

蔡 喬育¹ & 高橋紀子²

一、序文

理想的な第二言語の教材とは可能な限り／（できる限り）当該言語の知識および技能（駆使能力）がバランス良く習得できる上、学習者に興味及び情熱（意欲）をもたらすことによってその言語の使用能力を高めることができるものとする。また教材は、カリキュラムに沿ったものであるとともに学習者の成長のバックグラウンドに合わせる必要がある。教材の作成については、児童心理の要素を取り入れ、文化がもたらす親近感を利用し慣れ親しんだ文化の中で楽しく第二の言語を学習できるようにすべきである。

「絵本は、アメリカの公共図書館の児童図書館の図書分類のための用語に由来するものと推測される」（鄭雪玫，1989）。絵本（picture books）は挿絵入り物語（illustrated book）とも呼ばれる。また、児童書（childlike book）

という別の名称でも呼ばれている（黃迺毓、李坤珊、王碧華，1994）。また、鄭麗文（1999）によれば、「絵本とは絵図が主で文字が補助的役割を果たすもの、ひいては如何なる文字の記載のない読み物」である。劉鳳芯（2000）は、「絵本は図画と文字の双方によって表現された文学形式であり、当該作品の意味は絵図と文字の二種類の符号が相互に作用、矛盾、融合を織り成すこと、いわば、図画言語と文字言語の「演奏」或いは「合奏」によってもたらされる」と説いている。鄭瑞菁（1999）は「全ての挿絵入り童話書が絵本と称されることができないわけではない」と強調。鄭瑞菁（1999）はP.

Nodelmanの説を引用し、「絵本は系列を成した絵図とそれに関連した少数の文字の結合或いは文字がなく絵図のみで構成され、知識或いは物語を伝達するもの」、また、Sutherland及びHearne（1984）の説を引用し、「挿絵と文字は等しく重要、ひいては挿絵が文字よりも更に重要である。なぜなら、児童が物語を聞いた際、聴覚面のみならず視覚面においても反応がみられるため、相当な影響力をもつ絵本のなかには全く文字がない。」ともしている。

¹台湾台中教育大学語文教育学科

助教授

²台湾台中教育大学語文教育学科中国語修士プログラム 大学院生

絵本は適切に活用した場合、児童の日常生活の中で重要な役割を担うことができる。なぜなら、絵本の中の生き生きとした登場人物および児童の生活に密着したシチュエーション等は児童が人間関係における摩擦の緩和及び解決方法を見出すことに役立つからである。また、児童に異なった社会のシチュエーションごとにとるべき適切な態度や他人との分かち合いを教え、更には児童の社会化能力の発達を促すからである。

江麗莉(2006)は「絵本は、児童の生活経験を広げ、読書能力を伸ばし、美への探究意識を高め、認識力の増進、他人との関わり及び情緒の発達を促す」としている。

児童が学習する過程において絵図は最も好まれ、最もわかり易いものである。絵本はこの特徴を兼ね備えているため、筆者は絵本が持つ児童に対する特殊の教学機能を活用し、また日本の児童にとって親しみのある日本の伝統的な童話物語を用いて日本の児童に第二言語(中国語)を指導し(ており)、この授業法によって学習者が順調に且つ楽しく第二言語(中国語)を学ぶことができるよう期待するものである。本文が日本の児童向け中国語教材開発にたいする啓示となることを願う次第である。

二、童話物語絵本の重要性：児童の言語認識能力発達の観点から

児童の言語能力発達の過程においては一定の順序が見られる。認識と言語との関係に論争はあるものの、認識能力が言語能力に先んじて構築される、或いは、言語と認識は異なった発達の層において特定の関連性がある、或いはいくつかの認識能力は言語習得の先決条件ではあるものの十分条件ではないと強調する等、諸説あり。

認識能力の発達は幼児が生まれたときから触れるもの、遊ぶもの、目に見える周囲のものが徐々にわかることに始まる。その過程で身に触れた事物をつなげて既に身についた体験と新しく触れた事物を相互に融合させる。もし、前後で異なる場合には修正を加え新たな認識に達する。認識能力を基礎にして徐々に他の能力も発達していくのである。(認識能力と言語能力間)の認識能力、訓練方法は生活に密着したしかもわかり易いものである。

認識能力の訓練方法として下記の5点が挙げられる

(一) 物、積み木、色彩の配合、形状等の順序配列

(二) 連続した動作を使った「おゆうぎ」

例えば、歌を歌いながら頭、肩、ひざ、足、踵などを触る動作を行う。

(三) 聴覚順序の確立

例えば、はじめは強く、次に弱くの順に太鼓を或いは手をたたく。

(四) 簡単な聴覚記憶の確立

例えば、指令に従う。この場合簡単な指令から複雑な指令に。

(五) 視覚順序の確立

例えば、連続性のある絵カード或いは物語の挿絵を順序どおりに並べる或いは役を演じるまたは連続性のある絵順序に沿って話す、等。

児童にある程度の認識能力が確立された後に大量の言語による刺激を与えた場合にその潜在能力が発揮され表現性のある言語に変換できるのである。この点、童話物語絵本は色、形状、挿絵、連続動作のおゆうぎ等の内容が組み合わさったものであるため、児童の言語学習においては重要な役割を果たすものと考えられる。

三、絵本の創作基準

童話絵本の創作は授業内容を構築する上で非常に重要である。授業においてはあるテーマを設定することによって児童に学習する言語の意義および正確な使用のタイミングを理解してもらう。蘇文霖（2006）の幼児向け中国語文教材の作成の変遷および実際の使用状況に関する研究によれば、児童向け教材は下記四点を含むべきとしている。

- (一) テーマを設定し、単元毎に構成されている。
- (二) おもしろく、可愛さがあり児童の興味を引く内容となっている。
- (三) 声に出して読める簡単な内容の文で構成されている。
- (四) 基本的な言語学習の要件、例えば筆順、部首等を含む内容となっている

また、蘇文霖（2006）はテーマ設定については殊更に、中国語を母語とする児童向け教材と異なり、テーマは地域性を超え、児童の社会能力の発達に沿った、例えば、簡単な自己紹介、直系親族の呼び方、兄弟姉妹、簡単な数字、基本の挨拶、好きなことについて話す等のテーマにすべきとしている。適切なテーマ設定は現場の教師にとっても学習者にとっても重要である。学習者の日常生活に関連したテーマのみが学習する中国語が実際の生活に根付き意義と価値を生み出すのである。

本文では中国語を学習する日本児童向けの童話物語絵本の開発のために絵本のデザイン創作の基準このため日本の児童が中国語を学ぶ際に見られる特徴を考慮に入れることは必至である。関連文献および筆者の長年の日本児童に対する中国語の教学経験から見出した特徴は下記の5点。

(一) 華人および日本人の教師による共同教学

日本の児童の親は、中国語の先生が中国語にて授業をすることが望ましいがやはり日本語がわかる教師がそばでアシストし、タイムリーに疑問点を解決してもらえたいことを望む。

(二) 学習者に安心感及び信頼感を与える必要

成人の学習者と異なり、日本の児童は特に周りの環境および周囲の補助者に頼ることがおおいいためより多く安心感および信頼感を求める。

(三) 声調の問題

日本の学習者にとって声調の第二声および第四声の聞き分けおよび発音は特に困難であるため教学の際に強化の必要あり。

(四) 中国語に対応する日本語訳つき教材の使用

授業の後に児童の親と一緒に復習できる、中国語を主とし、対応する日本語の訳文つき教材が必要。

(五) 日本語のできる中国語教師の必要性

学習を始めた最初の2ヶ月、学習者が授業に慣れ、不安な気持ちが減少できるよう日本語がわかる教師を配置する必要あり。しかし、2ヶ月後からは徐々に日本語の使用を少なくし、児童ができるだけ中国語を聞きとる練習をするよう補助すべき。これは高い学習効果が得られる様にするためである。

以上のとおり、日本の児童向けの絵本を用いた中国語教材は創作の基準を把握する以外に上記5点をも考慮に入れて作成することによって当該教材のターゲットおよび適切性を明確にすることができるのである。

四、結論

「絵本は生命を探求するための方法であり、児童に好まれているものである。もし、教師がそれを物語り、登場人物の役を演じる等の臨場感のある演出を加えたならその与える印象は忘れがたいものとなる」（盧美貴,2000）。それ故、絵本による授業で物語を語るというコンセプトの伝達、また、物語の内容について討論し役を演じることで児童の物語に対する理解力を高める。

絵本は図画も文字もあること特徴をとしている。特に図画は児童に興味を持たせるという大きな特徴である。もし図画が小さすぎたり或いははっきりと見えない場合は授業に影響を与えてしまうものである。このため、筆者は第二言語を使用して絵本の物語を児童に語っている。はじめて第二言語で語った時はクラス中の児童に面白いと感じてもらい、成果を得ることができた。児童等はゆっくりとした口調の中国語で語られる慣れ親しんだ童話に大興奮し、じっと聞き入るばかりであった。その後、絵本は教室の本棚に置かれ、児童等が自由に閲覧し、絵本の内容について話し合うことができるようにしている。このような結果は我々の予想を遥かに超えるものである。

子供が第二言語に触れるのが早すぎることで母語／国語の学習に支障を来すと心配する多いが実際には妨げになることはない。本当に避けなければならないのは「単一言語」或いは「全て中国語」または「全て英語」による学習が部分的に「言語神経元／ニューロン」の萎縮及び消失をにつながり、異なった言語に対する識別能力を失わせることである。このため、幼児期においては、父母或いは、幼児の世話をする者は可能な限り大量の異なった言語による刺激（第二、ひいては第三の言語）を幼児に与えるよう提唱したい。なぜなら、このような刺激は脳部の神経細胞の分岐を盛んにし、神経回路を濃密にする。その結果、幼児の聴覚神経細胞の活性化を保つことができるからである。幼児期に異なった言語による刺激を与える試みが将来において第二言語或いは外国語を学習する際の成功につながるの保証はないものの、少なくとも外国語学習の潜在能力（特に識音能力）を保持し続けることには役立つものと考えられる。また、児童の思考能力が更に鋭敏にもなる。さらには、万一脳がダメージを受けた、或いは病気にかかった場合には回復の可能性が高い。

学者Hakuta (1990) のスペインの68名の小学一年生を対象とした研究においては、小学一年生の時からスペイン語と英語のバイリンガル教育を受けた児童のうち、スペイン語の能力が優れた児童は英語の能力も優れているとの結果が得られている。Dufvao及びVoeten (1999) の研究においても、フィンランド語と英語の綴り方に大きな違いがあるものの、母語能力は外国語の学習にとって重要であることが示されている。彼らは7歳の小学一年を対象とした研究で二つの母語の読み書き能力（識字及び理解力）及び音韻の知識が英語学習にプラス面での影響を与えていることを発見した。これらの研究から、第一言語からもたらされる学習知識の基礎は第二言語或いは外国語の効率的な学習に繋がる事、さらには、第二言語の読み書き能力は第一言語の読み書き能力（例えば識字、理解力及び音韻知識）の影響を受けている事が理解できる。

ここにおいては、研究のファーストステップとして、まず様々な文献に基づいた童話物語絵本のデザイン、創作の特色の考察を踏まえた日本の児童向け中文教材開発のあり方について述べるにとどめたい。今後はこれに基づいた実証を行い、最終的にはその研究成果が中国語教師の参考、実用に供する日本の児童向け中文絵本教材の開発に活用されることを目指したい。

参考文献

- 江麗莉編 (2006)。繪我童年閱讀起飛：幼稚園繪本教學資源手冊。台北：教育部。
- 黃迺毓、李坤珊、王碧華 (1994)。童書非童書。台北：宇宙光。
- 劉鳳芯 (2000)。臺灣之圖畫書批評語言與討論語彙。毛毛蟲, 120, 3-9。
- 鄭雪玫 (1989)。從多媒體欣賞兒童文學。圖畫書視聽之旅導覽, 11, 3-4。
- 鄭瑞菁 (1999)。幼兒文學。台北：心理。
- 鄭麗文 (1999)。幼兒文學。台北：啟英。
- 盧美貴 (2000)。來自「童書」的生命之歌。載於台北市立師院實小 (編印), 與生命有約生命教育統整教學 (頁A2-A7)。台北：台北市政府教育局。
- Dufva, M., Voeten, J.M. 1999. Native language literacy and phonological memory as prerequisites for learning English as a foreign language. *Applied Psycholinguistics*, 20, 329-348.
- Hakuta, K. (1990). *Bilingualism and bilingual education: A research perspective*. Occasional Papers Series, No. 1. Washington, DC: National Clearinghouse for Bilingual Education.
- Sutherland, Z., & Hearne, B. (1984). In search of the perfect picture book definition. In P. Barron & J. Burley (Eds.), *Jump over the moon: Selected professional readings*. New York: Holt, Rinehart and Winston.